

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597820038		
法人名	社会福祉法人 阿武福祉会		
事業所名	グループホーム いらお苑		
所在地	山口県阿武郡阿武町大字福田下1358-1		
自己評価作成日	令和3年9月25日	評価結果市町受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個々のニーズの把握に努め、ケアにつなげている。 ・畑やプランターでの野菜作りや花を育てることで、収穫の喜びや季節を感じながら生活している。 ・毎月テーマを決めて、皆で協力しながら壁面飾り等の作成に取り組んでいる ・遠出は難しい現状ではあるが、馴染みの場所へのドライブや季節の花を見に行くなど、外出の機会を作り気分転換を図っている ・柏餅やおはぎ作りを楽しむなど、季節の行事を大切にしている。日々の食事も家庭の味を大切にしている。 ・手芸品を作り地元の道の駅で 販売することを計画しており、小学生へプレゼントもしている。 ・地域の行事には積極的に参加し、地域との関りを大切にしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、毎日の暮らしの一つひとつが利用者にとって、新鮮で刺激があるように、またその刺激や新鮮さが毎日の楽しみでもあるようにと、行事やレクリエーションの一つひとつに工夫と熱意を傾けておられます。利用者に旬の野菜を多く食べていただくようにと、新たに畑を借りて利用者と一緒に野菜作りをされ、収穫の喜びや旬の野菜の美味しさを味わってもらえるように取り組まれています。食事づくりでは、5つの井の中から利用者が好きなものを選べるようにされて、食事の楽しさと食事への関心を引き起こすための工夫をされています。毎月、家族宛に利用者の状況送付の文書を、「手紙の配達」として利用者と一緒に自宅訪問をされて届けられており、利用者にとっては家族に会える喜びと併せて、外出機会となるよう工夫をされています。レクリエーションでは、両手足を使うボールゲームや新聞紙を片手で丸めるなど、日ごろ使わない部分を使えるよう様々な工夫をされ、利用者も活き活きと取り組んでおられます。利用者一人ひとりの生活歴や力を活かして、味噌汁づくりや台布巾縫い、展示販売用手芸品づくり、外出好きな利用者への支援など、利用者一人ひとりが充実した暮らしができるように取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示したり、毎日目を通す介護記録用のファイルにも貼るなどして、常に目に入るようにしている。理念に基づいた介護が実践できるよう意識している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、介護記録にも添付して、毎日確認できるようにしている。カンファレンス時には、利用者が今、求めていること、必要なことを提供しているかを話し合って実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染者が出ていない町ではあるが、大きな行事やお祭りは中止になっており、交流の場はかなり減っている。気軽に買い物にも行きにくい状況で、日常的な交流はできていない。小学生との交流会や地元の神社の秋祭りは参加予定である。小規模デイの利用者とは、日々交流できている。	自治会に加入し、自治会長や自治会報を通して地域の情報を把握している。コロナ禍のため、ふるさと祭りや大農業祭等は中止となったが、利用者は八幡様祭り(秋祭り)やお釈迦様の花まつりに参加して地域の人と交流し、小学生との交流会にはコップと手作りの歯ブラシ入れをプレゼントに持参して交流している。職員は自治会主催の草刈りに年2回、参加している。ボランティアの来訪は待機してもらっている。利用者は地域にある馴染みの美容院を利用し、近くの農協や福祉の里で買い物時、散歩時に会える地域の人と挨拶を交わし、花や野菜の差し入れがあるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では、地域に向けた認知症に関する情報の発信は、全くできていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価結果は、職員休憩場所に置き、全員が目を通すようにしている。具体的な改善策は、管理者やグループホームの責任者が考えることが多いが、全員で実践することを意識している。	管理者は月1回の職員会議時に職員に評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を職員全員に配布して記入してもらい、まとめている。職員は自己評価を日々のケアの振り返りと捉えている。管理者は職員がコロナ禍での制限がある中、利用者一人ひとりのケアに心配りをし、支援内容に工夫と努力をしていると感じている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、内部研修で緊急時の対応(誤嚥、窒息、行方不明)や、脳梗塞発生時の対応、事業所で起こりやすい事故(ケガ、転倒、骨折、誤薬、行方不明等)を学習し、ベッドや車椅子への移乗について実践研修を実施するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も、運営推進会議は開催しておらず、意見をサービスに活かすことはできていない。	運営推進会議は対面式に開催して実施することに意味があると考えていたため、開催していない。運営推進会議の意義は十分理解しており、コロナ禍の制限が解除されたならすぐにでも開催することとしている。	・運営推進会議の定期的開催 ・会議メンバーからの意見をもらう工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者との連絡は、管理者が行なっている。	町担当者とは電話や直接出向いて、情報交換を行い、運営上の疑義について相談して助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは電話で情報交換を行い連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施設の施錠はしておらず、身体拘束をしないケアを実践している。やむを得ず身体拘束をする際の条件や家族の同意をとることなど、具体的な内容に関することは、苑内で行なう勉強会で学ぶ機会をもっている。	職員は「身体拘束防止マニュアル」を基に併設施設との合同勉強会で学び、身体拘束の内容や弊害、高齢者虐待について正しく理解している。スピーチロックやドラックロック、フィジカルロックについても具体的に学んでいる。玄関には施錠をしないで外出したい利用者があれば、職員と一緒に出かけるなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を実施するとともに、虐待を見過ごすことのないように努力している。体調不良やストレスから虐待に繋がらないよう、職員の健康面にも気を配るようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会は実施予定であるが、実際に活用する場面は、今現在ない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開設時の入居者家族に対しては、対面で説明をしていたが、今年度は、新型コロナウイルスの影響で、対面での説明は行なっていない。郵送等で契約書に目を通してもらい、疑問点や質問等に答える形式をとっている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情の受付体制に関しては、掲示板に貼るなどして周知している。意見や要望は職員間で共有し、運営に反映するよう努めている。外部へは、運営推進会議で公表することとしている。	相談や苦情の受付体制、第三者委員、公的機関窓口を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。家族からは面会（えんがわで15分間、2名迄、リモート面会）時や電話、手紙で意見や要望を聞いている。意見や要望は日常記録簿に記録して職員間で共有している。毎月、家族宛に担当している職員から、利用者の日常の様子を写真付きで記録して送付し、意見が言いやすいように工夫している。事業所近くに住んでいる家族には、利用者と一緒に訪問して記録を手紙として届けている。家族からは毎月の情報提供に感謝の気持ちが多く寄せられている。個別ケアに関する要望にはその都度対応するなど、家族の意見や要望を運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見を聞く機会を設けており、日常においても、いつでも意見が言える環境作りに努めている。	管理者は朝の申し送り時や月1回の職員会議時、カンファレンス時、係業務(研修、広報、行事)、合同勉強会の中で、職員からの意見や要望を聞いている。日頃から管理者の方から言葉をかけて職員が言いやすいような雰囲気づくりに努めている。職員からは個別ケアについてや急を要することや細かな事柄を徹底するためにグループラインの活用、感染防止のマスク、手袋の購入、行事用物品の購入、有給希望等についてあり運営に反映してる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の業務に関しては、適切な評価がされている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、積極的な研修への参加は控えているが、希望すれば、資格取得や研修への参加ができるような体制作りはできている。内部研修は、月1回の職員会議の前に勉強会の時間を持ち、テーマを決めて実施している。	外部研修は、職員に情報を伝えて、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度はコロナ禍の為参加していない。内部研修は、併設事業所との合同勉強会として年間計画を立て、毎月、職員会議の前を使って実施している。管理者や職員が講師となって、認知症についてや緊急時の対応(脳梗塞、誤嚥、窒息等)、事業所で発生しやすい事故と対応、身体拘束と虐待防止、介護技術、食中毒、感染症、看取り、介護技術、便秘等を実施している。欠席者には資料を配布している。法人では資格取得に関する勤務等への配慮がある。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はもてていない。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一緒に活動したり、会話をする機会を積極的にもちながら、本人の思いや希望を汲み取る努力をしている。困りごとに関しては、入居者の目線に立って考え、じっくりと話をする機会をもつことで、一緒に解決策を考えるようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係作りを大切にし、要望などにはしっかりと耳を傾けるようにしている。入所後も、遠慮なく意見が言えるような環境作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用していたサービス事業者の意見も聞きながら、本人が必要としている支援の把握に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りや裁縫など、人生の先輩として教えてもらうことも多い。できない部分は手伝い、できることに積極的に取り組むことを大切にしている。一緒に生活をするという意識を持つようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの感染拡大により、面会禁止の措置をとる期間も多く、家族と関わる機会が少なくなっている。リモート面会を実施しているが、利用者は少ない。同じ地区内の自宅に奥さんが一人暮らしをされている方については、感染リスクも低いことから、10日に1回自宅に一泊し、夫婦で過ごす時間を持てるようにしている。1か月毎に近況報告として、家族に様子を知らせており、電話の取り次ぎも行いながら、家族の絆が途切れないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と関わる回数は少なくなっているが、同じ地区内で行事がある場合は、積極的に出かけている。近くの美容院へ行ったり、近場にドライブに出かけるなど、馴染みの場所や人との関りを大切にしている。	家族の面会や電話や手紙での交流を支援している。馴染みの美容院の利用や馴染みの商店（農協、福祉の里）での買物、馴染みの地域（住んでいた場所、元住んでいた場所、懐かしい観光地、行ったことのある公園や海等）に、ドライブに出かけるなどの支援をしている。家族の協力を得て、一時帰宅や外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ地域の出身者ばかりだが、席の配置など、昔からの関係性にも配慮している。得意分野を生かして、他の入居者の服の修繕やボタン付け、洗濯物をたたんで居室まで持って行くなど、支えあいながら生活することを大切にしている。創作活動では、皆で1つの作品に取り組んでいる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実例なし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりとお茶を飲みながら話をする時間を持ち、会話の中から、本人の希望や思いを把握するように努めている。困難な場合は、日常の何気ない発言や行動から、思いを汲み取る努力をしている。	入居時には基本情報を活用して、前利用施設や本人、家族から生活歴や趣味、特技、食事の好き嫌い、本人や家族の希望を把握して思いの把握に努めている。職員は、日々の関りの中で利用者に寄り添い、入浴時や食事のあと、居室の掃除等、1対1になったときにはゆっくりと話を聞くように努め、普段言えないことも話してもらっている。把握した内容の記録はケアプランに関連するものと一般的な事柄に分けて、表情や発した言葉、行動、状況を日常記録簿に記録して思いの把握に努めている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、家族や利用していた事業所等から情報を得ながら、生活歴や生活環境の把握はできている。また、家族や本人との会話の中から、馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方は、概ね把握できている。日常記録簿や夜勤者からの引継ぎで、心身の状況を把握しながら、日々の活動につなげている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の希望を聞くとともに、日々の健康状態や活動の様子、趣味嗜好も考慮し、介護計画を作成している。職員間でも話し合いながら、より現状に即した計画を立て実行するようにしている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心になって、毎月1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして職員全員で話し合い、介護計画を作成している。3ヵ月毎にモニタリングを行い、6ヵ月毎に見直しをしている。利用者の状態や家族の意向に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録簿やケアプラン経過表などで、日々の活動や体調の変化、行事参加の様子や感想などを記録として残している。統一したケアの実施や、介護計画の立案、見直しに活かすようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ地区内の自宅に定期的に外泊したり、墓参りに行くなど、その時に生まれるニーズに、なるべく対応できるよう努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の地域資源の把握はできていないが、馴染みの場所や美容院に行くなど、地域の中での暮らしが継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師の回診があり、必要時には検診を行うなど健康管理に努めている。体調不良の際には、電話で相談したり速やかに受診している。眼科や皮膚科などの専門病院も、必要であれば受診が可能で、いずれの場合も受診結果は、家族に報告している。	本人や家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の往診がある。他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。結果は日常記録簿や申し送りノートに記録して職員間で共有し、家族には電話や月1回情報の報告の際に報告している。夜間や休日には事業所の看護師に相談し、協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調を注意深く見守り、不調の訴えや変化があった場合は、看護師に報告するとともに、適切な受診ができるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、心身の状態について情報提供している。退院後の対応についても、情報交換、相談を行なうことで、早期に退院できるよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢のために延命治療は希望しないと言われる入居者や家族もいるが、きちんとした話し合いはできていない。終末期の支援に関しては、本年度の勉強会のテーマのひとつになっており、苑で何ができるかを考える予定にしている。	利用者が重度化した場合の対応について、事業所としての指針をまとめることを、今年度の課題の一つとしている。看取りや医療機関、他施設への移設も含めて、支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	個々の状態を把握し、職員間で共有するとともに、ヒヤリハットを活用しながら事故防止に努めている。緊急時の対応や応急手当など、勉強会で繰り返し学習している。また、事故が起きた場合は、事例ごとに検証する機会を設け、同じことの繰り返しがないように努めている。初期対応については、繰り返しの研修ができていない。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット報告書、事故報告書に発生状況や内容、予防策を記録して、全職員に回覧し周知している。カンファレンス時に再度検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。内部研修(勉強会)で緊急時の対応(誤嚥、窒息、意識不明)や脳梗塞発生時の対応、事業所で起こりやすい事故(けが、転倒、骨折、誤薬、行方不明)の対応について学習している。ベッドや車いす等への移乗について実践研修に取り組んでいる。	・全職員での、応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時の避難訓練を定期的を実施し、いざというときに慌てずに避難できるよう訓練している。福祉避難所として、地域の中での役割ももっている。火災訓練は、地域の協力を得ての訓練も実施予定である。	年2回、消防署の協力を得て併設事業所と合同で夜間や日中の火災を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方、防災機器の使い方について利用者も参加して実施している。事業所は「福祉避難所」としての役割を担っており、内部研修で風水害や土砂災害発性時の対応について学習し備えている。地域との火災訓練の実施に向けて準備を進めている。非常用食品は備蓄している。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話の際には、家族のような言葉使いになってしまうこともあるが、人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れないようにしている。一人ひとりの人格を尊重し、言葉使いや話し方にも気をつけている。	職員は内部研修(接遇)や管理者の「声の大きさに配慮し、ゆっくりと話そう」の指導を通して学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら思いや希望を口にすることは少ないが、雑談の中から、できるだけ汲み取るようにしている。なんでも良いと口にすることもあり、その際は、2択の中から選ぶなど、自己決定する機会を作るようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた職員体制の中で、個々のペースを優先することができない時もあるが、できるだけ本人の意向に添った生活がおくられるようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は自力で行う入居者が多いが、不十分な時には声掛けをしたり介助をしている。敬老会やクリスマス会などには、普段よりも少しおしゃれができるよう配慮している。季節にあった服を着るように声掛けをすることもあるが、こだわりがあり、難しい場合もある。散髪やパーマは、馴染みの美容院に出かけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フキや栗の皮むき、しその葉もぎなど、季節の食材の下ごしらえや、漬物、切り干し大根、干し柿などを一緒に作っている。毎日の調理の手伝い、下膳、テーブルや食事用のトレー拭きなども、率先して協力がある。週に2回程度だが、朝のみそ汁作りを自分の役割として行なっている方もあり、みんなに「おいしい」と食べてもらうことで、やりがいや喜びにつながっている。季節の行事にちなんだ会食の機会を設けるようにしており、誕生日には、希望に添ったメニューでお祝いするなど、食事が楽しみの一つとなるよう支援している。	食事は、三食とも事業所の畑でとれた旬の野菜(ネギ、南瓜、胡瓜、ピーマン、茄子、トマト、オクラ、枝豆、とうもろこし等)や差し入れの野菜を使って利用者と職員と一緒に食事づくりをしている。季節感のある家庭の味を大切にして食欲が高まるように工夫している。利用者は食材の準備から調理、盛り付け、配膳、食事と、一連の作業を職員と一緒にやっている。利用者の中には、朝の味噌汁づくりを自分の役割として取り組み、生活の張り合いや喜びにもなっている。おやつづくり(おはぎ、柏餅、ホットケーキ、団子、ショートケーキ、ロールケーキ、プリン)や保存食づくり(梅干し、白菜の漬物、切り干し大根)も、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルについて同じものを食べている。誕生日には利用者の希望の献立にしている。季節行事食(おせち料理、節句の寿司、端午会食、土用の鰻、ソーメン流し、夕涼み会、年越しそば、もちつき、雑煮)の他、日常の食事、丼の場合は、5種類の丼を提案(天丼、親子丼、牛丼など)して、利用者を選んでもらうなど、食事が楽しみなものになるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭の味を大切にしながら、手作りの食事を提供している。野菜を中心に、なるべくたくさんの食材を組み込めるようなメニューを考えている。個々の食べる量を把握し、嗜好も考慮しているが、以前は嫌いだった物も、いらお苑に来てから食べられるようになったという、うれしい言葉も聞かれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは習慣となり、ほとんどの入居者が自力で行っている。必要な場合は声掛けや介助を行い、口腔内を清潔に保てるようにしている。見守りや介助を嫌がる人もあり、根気強く声掛けをしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意や便意がある入居者がほとんどで、トイレで排泄している。パッドの交換は介助している。失禁や使用済みのパッドを居室で乾かして再利用する人もおり、その際には、自尊心を傷つけないように声掛けを工夫しながら、清潔の保持に努めている。	排泄記録を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心やプライバシーに配慮した言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関する勉強会を行い、原因や及ぼす影響などを学習している。体操や散歩などの適度な運動、水分摂取、野菜をたくさん摂れるような食事作りをしながら便秘予防を行っている。排便状況の確認を行い、必要であれば個々の便秘予防にも取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	特に希望がない場合は、週に3回入浴をしている。畑仕事や草取りを行うこともあるため、必要に応じてシャワー浴なども取り入れて、清潔保持に努めている。	入浴は15時から17時までの間可能で、本人が希望すれば毎日入浴できる。順番や湯加減、好みの石鹸、ゆず湯等、利用者の希望に合わせて、職員との会話を楽しみながらゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、部分浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて、自由に休むことができるようにしている。気持ちよく眠れるよう、寝具の調整や居室の温度管理もおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の目的や用法、用量等を一覧表にし、常に確認できるように掲示している。副作用については、苑内で行う勉強会で学習する機会ももっている。薬が変わった時などには、状態の確認も注意深く行うようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考に、好きなことや得意なことを生かした活動をし、楽しみや張り合いを感じることができるようにしている。新しいことに挑戦する場面もあり、意欲を大切にしながら支援している。	居室の掃除(掃除機を使ったり、モップで床を拭く)、玄関の掃除、カーテンの開閉、リネン(シーツ、枕カバー)交換、布団を干す、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、花を生ける、花瓶の水を替える、食事の下ごしらえ、調理、下膳、テーブル拭き、トレイ拭き、味噌汁づくり、おやつづくり、プランターの水やり、草引き、プランターに花や野菜を植える、畑の草取り、野菜の収穫(ごうや、ミニトマト、胡瓜、オクラ、枝豆、茄子等)、繕い物、雑巾を縫う、手芸品づくり、編み物、テレビ視聴、本や雑誌、新聞を読む、写真集を見る、折り紙、ぬりえ、切り絵、貼り絵、書きぞめ、メモ日記をつける、歌を歌う、カラオケ、季節の壁画づくり(月見風景、金魚等)吊るし飾り(鶴と亀)、かるた、トランプ、坊主捲り、カレンダーづくり、風船バレー、ボール遊び、ボーリング、オセロ、モグラたたき、ジェンカ、なぞなぞ、しりとり、間違い探し、脳トレ(パズル、計算)、ラジオ体操、テレビ体操、リハビリ体操、口腔体操、ゲームでは、大小のボールを転がして両足で挟むゲームや、左手でボールを投げてボーリングのピンを倒したり、団扇での風船ゲーム、おてだまの積み上げ、片手で新聞を丸めてかごに入れるゲームなど、日ごろ使わない身体の部分を使った取り組みをしている。季節行事(雛祭り、夕涼みの会、そうめん流し、敬老会、運動会、クリスマス会等)、外出等、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過のため、家族や地域の人々と出かけることはほとんどないが、面会禁止が緩和されている時には、家族と一緒に、墓参りや自宅の様子を見に行く、知人を尋ねるなど、近場への外出は行なっている。感染の危険が少ない場所には、季節の花などを見に行き、会話の中から把握した希望の場所にも、天気の良い日には出かけるようにしている。	事業所周辺の散歩やベランダや公園で外気浴や日光浴、農協や福祉の里に買物に出かけている。季節の花見(梅、桜、水仙、つつじ、紫陽花、藤の花、菜の花、薔薇、ひまわり、彼岸花、紅葉)、ドライブ(自宅周辺、地区内、須佐、奈古、玉川、萩、津和野)、初詣、馴染みの美容院の利用に出かける他、家族の協力を得て、墓参り、一時帰宅、外泊等、本人の希望に添って、天候が良ければできるだけ出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で少額のお金を管理している入居者もいるが、ほとんどは家族や事務所で管理している。稀に、近くにあるJAで、好きな物を購入して自分で支払うこともあり、美容院での支払いをすることもある。預かり金は、必要な物の購入に使用することが多いが、本人の希望があれば、自由に使えるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、手紙のやり取りなど、希望がある場合は、その都度対応している。リモート面会も行い、顔を見ながらの会話ができるようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとにテーマを決めて、皆で作った作品を飾ったり、花を生けるなど、季節感を取り入れるようにしている。空調を適時使用して、温度管理を行い、掃除もこまめに行いながら、居心地よく過ごせるようにしている。	リビング兼食堂は併設施設との間にある中庭の天窓から差し込む自然光で日当たりもよく明るい。玄関や洗面台、窓際に季節の花を飾り、中庭のプランターには季節の花が植えてある。廊下の壁面には利用者と職員が一緒に作った季節の貼り絵(月見風景)がかざってある。室内には可動式の畳台やソファ、廊下の突き当りには窓から景色が眺められるように椅子が置いてあり、利用者が思い思いの場所で過ごすことができるように工夫してある。対面式の台所からは食事をつくる音や匂いがして生活感を感じることができる。温度や湿度、換気、清潔に配慮して定期的に消毒をして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを置き、好きな時間にテレビを楽しんでいる。併設している小規模ホールへも自由に行くことができ、通いの利用者との関わりを持つこともできる。介護予防スペースを使用することができ、景色を見ながら少人数でお茶を飲むこともある。必要であれば、一人で過ごす居場所も確保できる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、観葉植物を自分で管理している。自宅で使用していた馴染みの物や家具、寝具などを持ち込むことができるようにしており、居心地よく過ごせる居室作りをしている。	テレビやサイドテーブル、椅子、箆笥、ミシン、置時計、掛時計、3段ボックス、整理箱、紙細工道具、観葉植物、菊の鉢、雑誌、新聞、整容道具等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダーや自作品、家族写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前を掲示し、自分の部屋がわかるようにしている。夏には、入り口に違う柄の暖簾をかけており、柄を覚えることで自分の部屋を理解する入居者もいる。居室内の家具やベッドの向きなど、安全に生活できることに配慮し、環境を整えている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム いらお苑

作成日: 令和 4 年 2 月 20 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	運営推進会議の定期的な実施と 会議メンバーから意見をもらう工夫	コロナ禍でも実施できる方法を考え実践する	・新型コロナウイルス感染状況を見ながら、参 集しての会議または、書面の交付などを確実に 行なう ・情報発信を積極的に行いながら、一方的な報 告にならないよう、アンケートなどを活用して、 意見が言いやすい工夫をする	令和4月1 日から令 和5年3月 31日
2	35	全職員での応急手当や初期対応の、定期的訓 練の継続	・応急手当、初期対応の訓練を定期的に行 い、全職員が実施できる	・場面を想定した応急手当・初期対応の手順書 を作成し、それをもとに、少人数ずつでも、全職 員が繰り返し訓練できるようにする	令和4月1 日から令 和5年3月 31日
3	36	地域との協力体制の構築	火災等災害発生時の地域との協力体制を 築くとともに、地域における福祉避難所とし ての役割をもつ	・自治会との連絡体制を強化し、火災等発生時 の伝達方法を明確にしておく ・地域の方を交えての避難訓練を実施する ・地域に向けて、福祉避難所としての役割を伝 える	令和4月1 日から令 和5年3月 31日
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。